

2021 年度 岡山大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー:

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要:

本プログラムは岡山大学病院皮膚科を研修基幹施設として、岡山医療センター皮膚科をはじめ別表の研修連携施設(18 施設)と、研修準連携施設(11 施設:一人医長)からなる研修プログラムである。本プログラムは、一般皮膚科、皮膚外科、大学院重点コースなど各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目Jを参照のこと)

C. 研修体制:

研修基幹施設:岡山大学病院皮膚科

研修プログラム統括責任者(指導医):森実 真(診療科長)

専門領域:自然免疫、乾癬、アトピー性皮膚炎

指導医:山崎 修 専門領域:皮膚外科、メラノーマ、感染症

指導医:平井陽至 専門領域:ヘルペスウイルス感染症、酒さ

指導医:三宅智子 専門領域:ウイルス性疾患、EB ウイルス感染症

指導医:横山恵美 専門領域:膠原病

指導医:梶田 藍 専門領域:自己免疫、乾癬

施設特徴:豊富な研修連携施設と指導医のもとで、皮膚科専門医として必要な皮膚科診療技量を効率よく習得できる研修プログラムである。研修基幹施設の岡山大学病院皮膚科では、より高度な皮膚科診療として皮膚リンパ腫、メラノーマ、膠原病の集学的治療や皮膚外科手術のスキルを学ぶことができる。岡山大学病院皮膚科の外来患者数は1日平均100名にのぼり、研修連携施設や中・四国の皮膚科や他診療科から紹介される多様な症例の経験を積むことが可能である。年間手術件数は400件を超える。また、臨床と基礎を結ぶ橋渡し研究を重視し、リサーチマインドを持った皮膚科医育成に注力したプログラムになっている。

研修連携施設:岡山済生会総合病院皮膚科

所在地:岡山県岡山市北区国体町2番25号

プログラム連携施設担当者(指導医):荒川謙三(診療顧問)

指導医:吉富恵美(診療部長)

研修連携施設:岡山医療センター皮膚科

所在地:岡山県岡山市北区田益1711-1

プログラム連携施設担当者(指導医):浅越健治(医長)

指導医:眞部恵子(医師)

研修連携施設:岡山赤十字病院皮膚科

所在地:岡山県岡山市北区青江2-1-1

プログラム連携施設担当者(指導医):妹尾明美(部長)

指導医:馬屋原孝恒(医長)

研修連携施設:岡山市立市民病院皮膚科

所在地:岡山県岡山市北区北長瀬表町三丁目20番1号

プログラム連携施設担当者(指導医):岡崎布佐子(部長)

研修連携施設:岡山労災病院皮膚科

所在地:岡山県岡山市南区築港緑町1-10-25

プログラム連携施設担当者(指導医):白藤宜紀(部長)

研修連携施設:倉敷中央病院皮膚科

所在地:岡山県倉敷市美和1-1-1

プログラム連携施設担当者(指導医):大谷稔男(主任部長)

研修連携施設:鳥取市立病院皮膚科

所在地:鳥取県鳥取市の場1-1

プログラム連携施設担当者(指導医):増地 裕(部長)

研修連携施設:中国中央病院皮膚科

所在地:広島県福山市御幸町大字上岩成148-13

プログラム連携施設担当者(指導医):杉本佐江子(医長)

研修連携施設:福山医療センター皮膚科

所在地:広島県福山市沖野上町4-14-17

プログラム連携施設担当者(指導医):下江敬生(医長)

研修連携施設:福山市民病院皮膚科

所在地:広島県福山市蔵王町5-23-1

プログラム連携施設担当者(指導医):藤原 暖(医長)

研修連携施設:尾道市民病院皮膚科

所在地:広島県尾道市新高山三丁目 1170-177

プログラム連携施設担当者(指導医):檜野かおり(医長)

研修連携施設:広島市民病院皮膚科

所在地:広島県広島市中区基町7番33号

プログラム連携施設担当者(指導医):戸井洋一郎(主任部長)

指導医:加持達弥(部長)

研修連携施設:高松赤十字病院皮膚科

所在地:香川県高松市番町4-1-3

プログラム連携施設担当者(指導医):濱田利久(部長)

研修連携施設:香川県立中央病院皮膚科

所在地:香川県高松市朝日町1-2-1

プログラム連携施設担当者(指導医):森下佳子(科長)

研修連携施設:三豊総合病院皮膚科

所在地:香川県観音寺市豊浜町姫浜708

プログラム連携施設担当者(指導医):斉藤まり(部長)

研修連携施設:赤穂中央病院皮膚科

所在地:兵庫県赤穂市惣門町52-6

プログラム連携施設担当者(指導医):鳥越利加子(部長)

研修連携施設:静岡がんセンター皮膚科

所在地:静岡県駿東郡長泉町下長窪1007

プログラム連携施設担当者(指導医):清原祥夫(部長)

指導医:吉川周佐(医長)

研修連携施設:呉共済病院皮膚科

所在地:広島県呉市西中央2-3-28

プログラム連携施設担当者(指導医):笹木慶子(部長)

研修準連携施設:(別紙に記載)

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

- 委員長:森実 真(岡山大学病院皮膚科長)
- 委員:山崎 修(岡山大学病院皮膚科副科長)
- :妹尾 明美(岡山赤十字病院皮膚科部長)
- :浅越 健治(岡山医療センター皮膚科医長)
- :荒川 謙三(岡山済生会総合病院皮膚科診療顧問)
- :岡崎 布佐子(岡山市立市民病院皮膚科部長)
- :白藤 宜紀(岡山労災病院皮膚科部長)
- :大谷 稔男(倉敷中央病院皮膚科主任部長)
- :増地 裕(鳥取市立病院皮膚科部長)
- :杉本 佐江子(中国中央病院皮膚科医長)
- :下江 敬生(福山医療センター皮膚科医長)
- :藤原 暖(福山市民病院皮膚科医長)
- :檜野 かおり(尾道市民病院皮膚科医長)
- :戸井 洋一郎(広島市民病院皮膚科主任部長)
- :濱田 利久(高松赤十字病院皮膚科部長)
- :森下 佳子(香川県立中央病院皮膚科科長)
- :斉藤 まり(三豊総合病院皮膚科部長)
- :鳥越 利加子(赤穂中央病院皮膚科部長)
- :清原 祥夫(静岡がんセンター皮膚科部長)
- :笹木 慶子(呉共済病院皮膚科部長)

前年度診療実績:

	皮膚科		局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年 間手術数	指導医数
	1日平均外 来患者数	1日平均入 院患者数			
岡山大学病院	109.9人	14.9人	1,300件	150件	6人
岡山医療セン ター	41.9人	6.3人	741件	28件	2人
岡山済生会総 合病院	70.2人	4.7人	671件	13件	2人
岡山労災病院	35人	1人	200件	0件	1人
倉敷中央病院	38.5人	3.5人	350件	0件	1人
中国中央病院	43人	0.8人	196件	0件	1人
福山医療セン ター	24.4人	0.3人	100件	0件	1人
福山市民病院	25.6人	1.0人	134件	0件	1人
広島市民病院	36.7人	2.4人	513件	24件	2人
香川県立中央 病院	24.0人	0.5人	135件	0件	1人
赤穂中央病院	40人	2人	120件	5件	1人
静岡がんセン ター	25人	10人	193件	46件	2人
岡山赤十字病 院	49.9人	2.1人	311件	7件	3人
岡山市立市民 病院	40人	5人	75件	0件	1人
鳥取市立病院	33.4人	6.9人	222件	7件	1人
高松赤十字病 院	80.4人	16.1人	1650件	29件	2人
三豊総合病院	51.6人	4人	227件	0件	1人
尾道市立病院	35人	2人	335件	3件	1人
呉共済病院	20人	3.6人	264件	0件	1人
合計	820.5人	87.1人	7,737件	312件	31人

D. 募集定員:10人

E. 研修応募者の選考方法:

書類審査, 面接により決定(岡山大学病院皮膚科のホームページ等で公表する)。また, 選考結果は, 本人あてに別途通知する。なお, 応募方法については, 応募申請書を岡山大学病院皮膚科のホームページよりダウンロードし, 履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出:

選考に合格した専攻医は, 研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ, プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後, 同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会(hifu-senmon@dermatol.or.jp)に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

岡山大学病院皮膚科

平井 陽至

TEL:086-235-7282

FAX:086-235-7283

H. 到達研修目標:

本研修プログラムには, いくつかの項目において, 到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p.26~27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担:

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い, 研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 岡山大学病院皮膚科にて, 医学一般の基本的知識技術を習得した後, 難治性疾患, 稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。併設のメラノーマセンターは中四国のメラノーマの診断から治療, 臨床研究の拠点として立ち上げられ, 皮膚悪性腫瘍の研修には最適である。また, 皮膚難病や皮膚悪性リンパ腫の全国的な拠点施設でもあるので, 専門性の高い疾患群に対しても非常に高いレベルでの研修をおこなうことが出来る。これらを通じて医師としての診療能力に加え, 教育・研究などの総合力を培う。また, 少なくとも1年間の研修を行う。

2. 岡山医療センター皮膚科, 岡山済生会総合病院皮膚科, 岡山赤十字病院皮膚科, 岡山市立市民病院皮膚科, 岡山労災病院皮膚科, 倉敷中央病院皮膚科, 福山医療センター皮膚科, 福山市民病院皮膚科, 呉共済病院皮膚科, 広島市民病院皮膚科, 香川県立中央病院皮膚科では, 急性期疾患, 頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い, 病診連携を習得し, 岡山大学病院皮膚科の研修を補完

する。鳥取市立病院皮膚科，中国中央病院皮膚科，尾道市民病院皮膚科，三豊総合病院皮膚科，赤穂中央病院皮膚科では，上記とともにより地域医療に重点を置いた研修をおこなう。高松赤十字病院皮膚科では，主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法，化学療法，終末期医療を習得する。静岡県立がんセンター病院皮膚科では，とくに進行期の悪性黒色腫や有棘細胞癌など豊富な症例数と先進的治療・診断を経験することができる。また多職種チーム医療の充実から他科の症例にも数多く携わることができることから，本プログラムの連携施設として登録している。なお，これらの連携研修施設のいずれかで，少なくとも6ヶ月の研修を行う。

3. 準連携施設である南岡山医療センター皮膚科，倉敷第一病院皮膚科，笠岡市立市民病院皮膚科，因島総合病院皮膚科，興生総合病院皮膚科，住友別子病院皮膚科，姫路マリア病院皮膚科，津山中央病院皮膚科，姫路赤十字病院では指導医不在の一人医長として，また岩国医療センター皮膚科は手術を中心に形成外科との共同研修として最長1年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は，岡山大学病院皮膚科，広島市民病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り，診療の相談，カンファレンスへの参加を随時行う。地域医療研修のために，連携研修施設または，指導医不在の一人医長として研修を行う準連携施設のいずれかで，少なくとも1年間の研修を行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
A	基幹	準連携 or 連携	連携 or 準連携	連携	連携 or 基幹
B	連携	基幹 or 連携	準連携 or 基幹	連携	連携
C	基幹	連携 or 準連携	連携 or がんセンター	がんセンター or 連携	基幹 or 連携
D	基幹	準連携 or 連携	連携 or 準連携	大学院 連携 (臨床)	大学院 連携 or 基 幹 (臨床)

E	基幹	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 連携 or 準 連携 (臨床)	大学院 準連携 or 連携 (臨床)
---	----	-------------	-------------	------------------------------	-----------------------------

- a: 研修 1 年目に研修基幹施設で研修する基本的なコース。研修 2-3 年目には 12 カ月以上地域医療を経験する目的で県外の連携もしくは準連携施設での研修をおこなう。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが、諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。
- b: ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修を開始するコース。研修 2-3 年目には 12 カ月以上地域医療を経験する目的で県外の連携もしくは準連携施設での研修をおこなう。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが、諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。
- c: 皮膚外科医を目指すコース。研修 2-3 年目に手術症例の豊富な高松赤十字病院あるいは岩国医療センター、3-4 年目に静岡県立がんセンターにて研修し、5 年目は基幹施設で皮膚外科中心に研修する。
- d: 研修後半の 4 年目より、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- e: 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を 5 年間持続する必要がある。特に 4 年目、5 年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。

2. 研修方法

1) 岡山大学病院皮膚科

外来: 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟: 病棟医長のもと 3-4 チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では 1 回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来	外来 手術		
午後	病棟 回診 術前カン ファレンス	病棟 手術 研究カン ファレンス	病棟 手術	回診 病棟 病理カン ファレンス	病棟 手術		

2) 連携施設

独立行政法人国立病院機構岡山医療センター皮膚科

地域中核病院の皮膚科医として勤務し、皮膚科で扱う一般的疾患の診療に当たるとともに、急性期病院で対応すべき皮膚疾患への対応を身につける。特に、悪性および良性皮膚腫瘍、皮膚科救急疾患、難治性皮膚疾患、皮膚病変を伴う全身疾患、他科患者の皮膚合併症などの検査診断技術や治療法の習得に重点を置く。しっかりと皮膚外科手技も身につける。週に各 1 回ずつ開催される臨床および組織カンファレンスに参加し学習を深める。年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行い、積極的に論文を執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーにも積極的に参加する。また、病院が実施する医療安全などの講習会には定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟	手術 病棟	外来 病棟 臨床カンフ アレンス	手術 病棟 病理カンフ アレンス	外来 病棟		

岡山労災病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、一般皮膚科診療における診断学、治療のほか、救急医療、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟 褥瘡委 員会	外来 病棟 抄読会 (岡大)	外来 病棟 カンファレン ス	外来 病棟 カンファレン ス(岡大)	外来 病棟	宿直*	

※宿直は4回／月を予定

香川県立中央病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 手術 カンファレンス	病棟 手術	病棟 外来	宿直*	

※宿直は1～2回／月を予定

岡山済生会総合病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来 手術		

午後	病棟 外来	病棟 褥瘡回診 手術 カンファレンス	病棟 外来 フットケア外来	病棟 外来	病棟 手術 組織カンファレンス		
----	----------	-----------------------------	---------------------	----------	-----------------------	--	--

※宿直は1.5回／2ヶ月程度を予定

三豊総合病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。高松関連病院皮膚科のカンファレンス、抄読会に月1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

褥瘡委員会 委員長として回診、委員会(月1回)、年1回講師を招いて褥瘡講演会を開催する。および医局主催の英会話教室に週1回参加し、語学力を高める。皮膚科関連の学会、香川大学主催の皮膚科講演会を、岡山大学のセミナーなど積極的に参加し、聴講する。皮膚科以外の下肢創傷治癒を考える会(年2回)に参加・発表する。香川膠原病研究会(年1回)参加・発表する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術	病棟 予約外来		

※宿直は1回／月を予定(サポート日直 日曜日)

静岡がんセンター病院皮膚科:

皮膚外科医を目指すコースを選択した場合に限り1年間研修する。皮膚悪性腫瘍患者の手術療法、化学療法、緩和医療を中心に習得する。この期間は岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟 (外来)	手術	病棟 (外来)	病棟 (外来)	病棟 (外来)		
午後	外来 (手術)	手術	外来 (手術)	外来 (手術)	外来		

岡山赤十字病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。科のカンファレンス、臨床写真と組織検討会を週2回(火曜、木曜)に持ち、学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	検査	手術 カンファレンス	検査	手術 組織デモ	褥瘡 回診		

赤穂中央病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 外来	病棟 手術 カンファレンス	病棟 外来	病棟 手術 大学カンファ レンス	病棟 外来	宿直※	

※宿直は2回／月を予定

倉敷中央病院皮膚科:

外来では紹介を含め新患も担当し、症例検討会で受け持ち患者を提示する。また、入院患者の主治医として検査や治療を行い、カンファレンスでプレゼンテーションを行う。他科入院患者や救急患者の診断・治療にも積極的に関わる。講演会や勉強会に参加して見識を広める。学会や研究会で、年3回以上の症例報告を行い、年2編以上、論文で発表する。

研修の週間予定表の1例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	病棟	外来	外来	外来	
午後	外来 病棟	外来 病棟	病棟 カンファレンス 症例検討	病棟 病棟 (講演会)	外来 病棟		

土曜外来は隔週

宿直は1回／月程度

中国中央病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に可能な限り参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来補助	外来	外来	外来補助	外来		
午後	病棟 外来補助 カンファ レンス	病棟 外来	病棟 手術	病棟 外来補助 カンファ レンス	病棟 外来		

※宿直は1～2回／月を予定

鳥取市立病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟	手術	病棟	手術	病棟 カンファレンス		
----	----	----	----	----	---------------	--	--

※宿直は2回／月を予定

呉共済病院

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。広島関連病院皮膚科のカンファレンス、講演会に参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術	病棟		

※宿直は2回/月を予定

福山医療センター皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術 外来	外来	手術 外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟 外来		宿直※

※宿直は1-2回／月を予定

福山市民病院:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に可能であれば、

週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 手術	病棟	病棟	病棟		

※宿直は2回／月を予定

広島市立広島市民病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院、がん拠点病院の勤務医として、第一線の救急医療や処置、皮膚悪性腫瘍患者を含む手術療法、化学療法、免疫療法、緩和医療を習得する。広島市民病院皮膚科・病理診断部合同のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病理診断 研修	外来	外来 病棟	外来		
午後	病棟	臨床・病理 カンファレンス 病棟	病棟	手術	病棟 手術		

※宿直は2回／月を予定

高松赤十字病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、院内感染対策講習会などに定期的に参加する。この期間は岡山大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会には参加しなくてもよい。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	カンファレンス 外来	外来	カンファレンス 外来	外来	カンファレンス 外来 手術		
午後	病棟 手術	病棟	病棟 手術	病棟 カンファレンス	病棟		

※外科系救急当直は1回／月を予定

岡山市立市民病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。岡山大学医学部皮膚科のカンファレンスで月1回、岡山勤務医会で2か月に1回参加し、問題症例がある場合には症例提示を行う。必須の講習会を受講し、年に3回以上筆頭演者として学会発表を行う。研修期間中に初診から診断、治療、学会発表、症例報告の論文作成までの一連の過程を、すべて自力でこなせるような症例をもつことを一つの目標とする。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	病棟	病棟	外来	病棟・ 救急	
午後	病棟 褥瘡回診・ 他科診療	手術 カンファレンス・ 他科診療	他科診療	手術 レーザー	病棟 他科診療		

尾道市立病院皮膚科:

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟 処置	病棟 手術	病棟 手術	病棟 褥瘡回診	病棟 処置		

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院もしくは連携施設にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科もしくは皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

岩国医療センター、笠岡市立市民病院皮膚科、因島総合病院皮膚科、興生総合病院皮膚科、倉敷第一病院皮膚科、住友別子病院皮膚科、姫路マリア病院皮膚科、津山中央病院皮膚科、姫路赤十字病院皮膚科では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の半年から1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設(広島市民病院、岡山大学病院)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目:研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降:前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	岡山地方会
6	日本皮膚科学会総会(開催時期は要確認)
7	日本皮膚悪性腫瘍学会(開催時期は要確認)
8	研修終了後:皮膚科専門医認定試験実施
9	岡山地方会
10	日本皮膚科学会西部支部学術大会(開催時期は要確認) 試験合格後:皮膚科専門医認定
11	日本皮膚アレルギー学会(開催時期は要確認)
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う(開催時期は年度によって異なる)
1	岡山地方会
2	5年目:研修の記録の統括評価を行う。

3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付
---	-------------------------------------

K. 各年度の目標:

- 1, 2年目:主に岡山大学病院皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標, 個別目標(1.基本的知識 2.診療技術 3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5.生涯教育)を学習し, 経験目標(1.臨床症例経験 2.手術症例経験 3.検査経験)を中心に研修する。
 - 3年目:経験目標を概ね修了し, 皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4, 5年目:経験目標疾患をすべて経験し, 学習目標として定められている難治性疾患, 稀な疾患など, より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識, 技術をさらに深化・確実なものとし, 生涯学習する方策, 習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり, その成果を国内外の学会で発表し, 論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり, 研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎年度:日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、岡山地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し, 診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し, 自己学習に励む。

L. 研修実績の記録:

1. 「研修手帳」を, 日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし, 利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録(皮膚科学各論, 皮膚科的検査法, 理学療法, 手術療法), 講習会受講記録(医療安全, 感染対策, 医療倫理, 専門医共通講習, 日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会, 専攻医選択講習会), 学術業績記録(学会発表記録, 論文発表記録)。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医, 指導医, 総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記(M)の評価後, 評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を, 日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし, 確認すること。特に p.15~16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価:

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断, 異動:

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全:

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における夜間休日のオンコールはおおむね 2~3 回/月程度である。

2016年3月18日
3月28日 改訂
3月29日 改訂
2017年7月24日 改訂
2018年4月18日 改訂
2019年6月18日 改訂
2020年5月15日 改訂

岡山大学病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
森実 真